

最高速度=194.33km/h



フェアレディZ-L2/2
(久保氏所有)

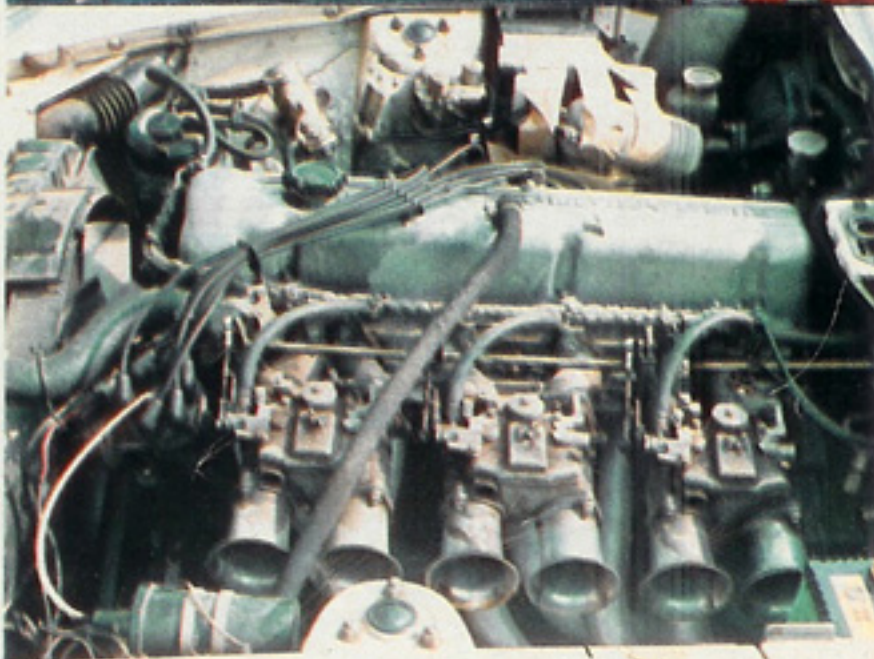
この2プラス2のマシーンも例によってL26型エンジンをボアアップして2861ccを得ている。エンジンの内部は特別なチューニングは行なわれておらず、キャブレターをソレックスの44PHHを3個にして吸排気系の効率を高めている。

点火系はL28用のフルトランジスターを採用し強力で確実な火を飛ばしている。

一方足回りは、オリジナルのコイルスプリングの一部を切断して車高を下げてある。

ホイールはZのレース用に開発された神戸製鋼製スポーツオブションの8インチ幅を前後に使っている。タイヤはダンロップレーシングのマークIII。前が4・75/10・00-14、後が4・75/11・30-14となつている。

このマシンの最高速は194・3km/hと残念ながら200km/hの壁は破ることはできなかったが、トライしたのは一周のみであった。理由はキャブレターのセッティングが悪く高回転でエンジンがバラツキを起しパワーを出してくれなかったからである。キャブレターのジエットを交換して再度試



して見る予定であつたが、ピットインすると右後輪のタイヤバンクに気が付いた。

レーシングタイヤを一般の道路の走行に使用することはあまり適当でない。第一にレーシングタイヤのサイドウォールは発熱の放出を良くするために極端に薄く、歩道など段のあるところへサイドをこすつたりするとバーストの危険がある。第二にレーシングタイヤのコードは特別な処理がされていて通常は十分な強度を得ているが、水分が一旦コードに付くとその強度は極端に低下する。

レーシングタイヤを一般道路に使用していると小石等によつてピンホールができてコードに水分を吸収させることがある。この状態になつているときに高速走行などで急激に内部の圧力が上昇したりするとバーストの危険がある。やはり一般道路には一般道路を走行するために設けられたラジアルタイヤの類が良いだろう。タイヤを交換して再度トライしようとしたが今度はフルトラの御機嫌が悪くエンジンが吹けなくなつてしまった。結局、ゼロヨンも計測できなかったわけである。